

柱を残し、新しく導入した無垢材も古い木に馴染むように調色。室内の壁には、和テイストながらモダンにもシックに見えることができる西洋漆喰を採用している。また、階を吹き抜けにすることで開放感を与えたり、薪ストーブを置いたレンガゾーンを作って空間にアクセントを設けるなど、若者にも親しまれる演出を披露。

「ここは自宅というよりギャラリー。建具を外し、構造を見せる空間にするので、古い家の素晴らしい建築技術を見て、触れて、みなさんに理解してもらえようとしています」と三上さん。いにしへの住空間の魅力は、まだまだ続く。

古民家が伝える日本の美意識  
求めていたのは、丁寧な暮らし

「和の家 吉木」にてホッとする理由は、レトロな木の温もりだけではない。空間のペースとなるところから造形部分、インテリアに至るまで、ほとんどが職人による手仕事で作られているからだ。

さらに部屋のデザインをワンパターナ化せず、それぞれにコンセプトアルなテーマがあるのが面白い。例えば、囲炉裏のあるリビング、文机と書院を設けた和室、旅館のような岩風呂など、暮らした中の丁寧な時間を染しめる仕掛けが散りばめられている。2階は、畳部屋だったところを寝室と多目的スペースとし、大正ロマン漂う空間へと昇華。照明に頼らず四季折々の自然の光に任せて暮らしや、陰影の美的感覚を味わう「陰翳礼讃（いんえいらいざん）」の奥ゆかしさを表現しているのだ。こういった日本家屋の風雅を伝えることができるのは、

Bedroom



寝室は窓を小さくし光を抑え、落ち着いた心地良い空間に仕上げた。まるで別荘のようで、ここなら安眠できそう

Japanese Room

床の間や書院スペースは、昔ながらの和の奥学。右手の障子を開けば、縁側越しに外からの光が入り、より一層和みの空間へ



Wood Stove

アメリカ製の薪ストーブを設置し、その周りに木と相性が良いレンガを組み立て、空間にアクセントをつけた。パチパチと鳴る音とゆらめく灯火に癒される



今回の家を  
つくったのは...

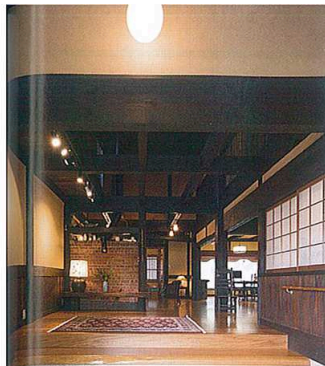
Lavatory



洗面所(写真左)と手洗い(写真右)は、木の温もりを活かしながらグリーンな雰囲気仕上げています。タイルを張ってモダンさを加味したり、機能的な造作のアレンジも可能

Entrance

玄関が広いと、訪問者が気持ちよく出入りでき、家全体のゆとりも伝わる。効果的にムードのある照明をセレクト



Living

囲炉裏のあるリビングスペースは、誰かを招きたくなる趣向性のある空間。寛ぎながらお茶を淹れ、焼き物を飾るのも醍醐味



家づくり

ふくおか通信  
家づくりのバイブル「家づくりの本」から、とっておきの注文住宅での暮らしをご紹介します。



「ハウスランド社」の展示場  
モデル住宅『和の家 吉木』

歴史や思い出が蘇生する家  
古民家に学ぶ、美しい住まい

伝統建築で作られた古民家は頑丈で、ゆとりがある。ありのままの自然の木を使い、人と環境に寄り添っている。そこにモダンさと現代技術を加えて、暮らしやすさを実現。家づくりを検討中の人にぜひ訪れてほしい。

Company Data  
株式会社 ハウスランド社  
福岡県春日市天神山2-83  
TEL 092-593-2220  
www.h-land.jp  
ここで紹介した展示場は  
モデル住宅『和の家 吉木』  
福岡県筑紫野市大字吉木344-1  
TEL 092-922-8771

「和の家『吉木』」を見渡している、何十年後の暮らしまで想像できる。穏やかに、健やかに、ゆたう時間が流れる心地良い暮らしだ。「家づくりにおいて、機能面や無駄のない構造ばかりに執着せず、やすらぎやゆとりを家の中に持たせるのも大切なことです。床の間や、透かした彫りの欄間もそうですよね。無くても困らない部分ですが、花を生ける場所や四季を感じる部分を作ること、心が潤い、住まう幸せを実感できるはずですよ」と三上さんは教えてくれた。

ちなみに、「ハウスランド社」の施工は古民家だけではなく、このような古き良き日本の伝統建築を新築住宅に踏襲し、施主の想いを形にした注文住宅も担当する。家づくりのヒントを得たいなら、ぜひ同社が手掛けたモデル住宅「吉木」、そして和と洋が融合した「風のくら」へ訪れてみて。両者から素晴らしい日本の住まいが感じられるはずだ。

ゆとりと環境が居心地の良い家へ  
家づくりのヒントが見つかる

やがて古民家ならではの、厳かな空気感や温かみのある包容力は、長い月日を経て生まれたものであり、新築住宅には敵わない部分だろう。



築90年以上の古民家だが、最新技術の断熱材やペアガラスを施し、寒さ対策は万全だ

木に囲まれたモダンな古民家に「本当の家づくり」を学ぶ

ヨーロッパでは、何百年前の古い建物が今も住空間として大事に使われている。歴史的な建物を現代技術でリノベーションし続けることで、古き良き佇まいと快適なハイテク機能を共存させているのだ。では私たちはどうだろうか。もし実家に残された古民家がある人は、今一度その価値を見直してみてもいい。

重厚で立派な表構えの古い軒梁、玄関の引き戸を開けて中へ入った途端、木の良い香りが漂い、思わず目を閉じて深呼吸したくなった。ここは、革新的な古民家再生を行う「ハウスランド社」のモデル住宅「和の家 吉木」だ。「こんな木の香りがするのは、これらの無垢材の木が今も呼吸しているからですよ」と話すのは、同社取締役社長であり建築プロフェッサーの三上信比古さん。「建築は築90年以上の家屋であり、昔ながらの懐かしさを和の雰囲気はそのままだに、モダンなデザインと最新技術を随所に施しながら再生された。ふだんに使われた木材は、当時の地松の梁や